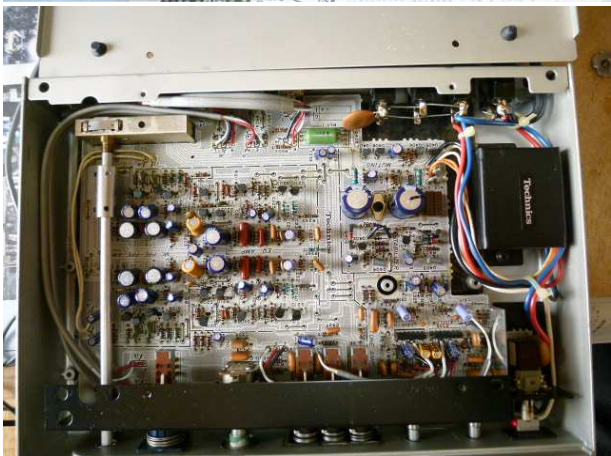


コンサイスコンポ SE01

今回の修理は、松愛会会員のFさんからの依頼です。実は昨年2013年新春懇親会の席で小生のオーディオ修理の岐阜便利を見ていただき声がかかったのですがそのままになっていました。今年2014年新春懇親会で改めて依頼を受け、2014年1月のある日修理するコンサイスコンポを受け取りました。



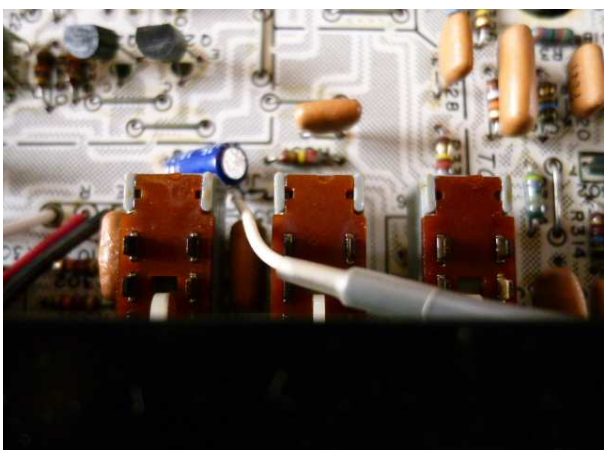
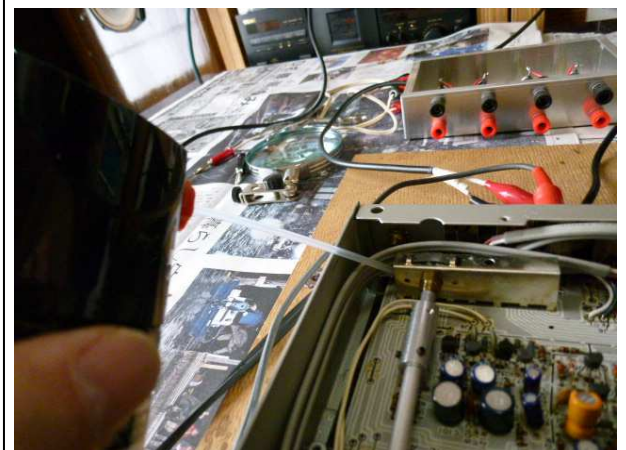
1978年に発売された、テクニクスコンサイスコンポのパワーアンプ(SE01)とプリアンプ(SU01)です。チューナやスピーカーやレコードプレーヤを組みますと30万円を超えていたと思います。アルダイキャストを使う等、重厚な作りとなっています。



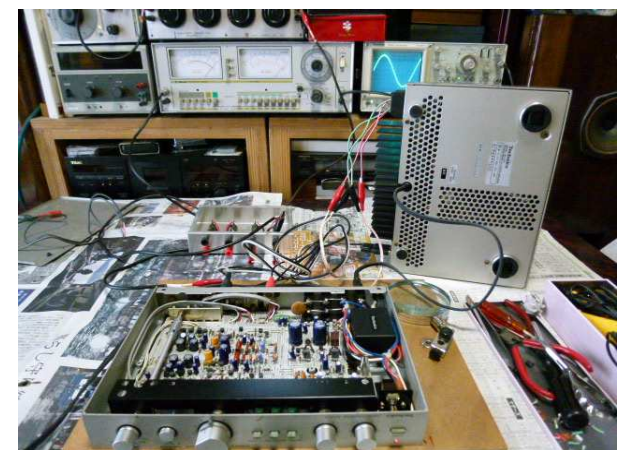
底蓋を外します。Fさんの話では、「音が途切れる」との事でしたので、まずプリアンプの蓋を開けて基板の部品を目視チェック。特に異常が無くこの状態で一旦、電源を入れました。



AUXから信号を入れてS2のセレクトSWを操作しますと時折信号が途絶えることが分かりました。SWの接点接触不良だと考え何時も使う「接点復活剤」を使いS2の開口部から噴霧させます。30分程SWを動かし接点を復活させます。



他のSW4個も全てクリーニングした後、一日かけてエージングしました。出力は0.1%出力で40Wを確保していました。各入力利得、SN比、残留ノイズ、帯域等一通り測定し修理完了！これで返却できます



今回は、典型的なSWの経時変化に伴う接点不良でした。接点復活剤でも直らなければハンダ付けを外しSWをばらしての洗浄を考えましたがその必要はありませんでしたが、しばし、往年の懐かしいアナログオーディオに聞きほれてしまいました。